宮坂　覺先生を送る

宮坂覺先生は、一九八〇年に福岡女子大学からフェリス女学院大学文学部に助教授として赴任され、二〇一三年三月まで、三三年の長きにわたり、大学及び日本文学科のためにご尽力下さいました。その間、一九八七年四月から一九九一年三月まで学生部長に就任され、また一九九一年四月からは日本文学科主任、翌一九九二年四月からは人文科学研究科日本文学専攻主任を兼ねられ、様々な改革を推し進めてこられたことは、履歴にも明らかなとおりです。

宮坂覺先生は、まず学科名を国文学科から日本文学科に改称されたことを皮切りとして、大学院の整備、また一九九七年四月から一九九八年度を除き、二〇〇五年一〇月、二〇〇八年四月から二〇一二年三月まで大学評議員として、学院全体に関わるお仕事も進めてこられました。一九九七年から翌一九九八年三月まで入試主任を務められ、四月からはサバティカルでロンドン大学ＳＯＡＳに特別研究員として一年間滞在され、帰国後は二〇〇五年一〇月二十六日まで文学部長、人文科学研究科長、二〇〇一年四月から二〇〇四年三月までフェリス女学院理事を兼務され、二〇〇四年から二〇〇七年までフェリス女学院評議員、そして二〇〇八年四月から二〇一二年三月までフェリス女学院大学学長を務められました。

とりわけ、学長時代にはフェリス女学院創立一四〇周年記念事業として、朝日新聞に共同コミュニケを発表し、加えて世界各国にもこの共同コミュニケを発信し、各国大使館からお返事をいただいたことも記憶に新しいことです。

また、学内のみならず学外においても、横浜市国際交流協会選考委員、日本学術振興会専門委員、私立大学連盟学長会議幹事、また神奈川近代文学館評議員、国際芥川龍之介学会代表理事会長など、歴任されておられます。

御研究の分野においては、芥川龍之介研究の第一人者であることは、誰もが認めるところでありましょう。さらに教育という側面においては、学生にとって慈父のような優しさと、研究の厳しさを教え伝える、優れた「師」「先生」であったことが思い出されます。

宮坂覺先生をお送りする言葉を認めながら、改めて先生の存在の大きかったことに気付かされますと共に、宮坂覺先生の益々のご健勝とご活躍を祈りつつ、送る言葉とさせていただきます。

二〇一三年二月

日本文学科主任　佐藤裕子